

神様の創った耳に
少しでも近づきたい

第1回 日本耳介再建 研究会

The 1st Japan Society for
Auricular Reconstruction(JSAR)

2017.11.2(thu)-11.3(fri)

会場


札幌医科大学医学部

臨床講堂・共用実習室・北第1講義室・組合会議室

会長

四ッ柳 高敏

札幌医科大学医学部 形成外科学 教授

事務局：  札幌医科大学医学部 形成外科学

第1回 日本耳介再建研究会 開催報告

目次

- 1、 研究会日程表
 - 2、 症例検討会プログラム
 - 3、 参加者名簿
 - 4、 Photo コーナー（研究会の様子）
 - 5、 参加者の感想
 - 6、 主催者から
 - 7、 会則
-

1、研究会日程表

第1日目 11月2日（木曜日）

13:00～18:00	ライブサージャリー 「小耳症 肋軟骨移植術」 場所:臨床教育研究棟1階 臨床講堂 ⇄ 附属病院手術室 会場モデレーター:香川大学形成外科 瀨本有祐 執刀医:四ッ柳高敏
17:00～	今後の方向性検討会 場所:臨床教育研究棟地下1階 組合会議室 司会:札幌医科大学形成外科 四ッ柳高敏
19:00～	総合懇親会

第2日目 11月3日（金曜日・祝日）

10:00～	ハンズオンセミナー 「肋軟骨フレームカービング」 場所:臨床教育研究棟1階 共用実習室
12:00～12:45	ランチオンセミナー 「各種先天性耳介変形の成因と治療法」 場所:臨床教育研究棟地下1階 組合会議室 演者:札幌医科大学形成外科 四ッ柳高敏
13:00～16:00	症例検討会 場所:教育北棟2階 北第1講義室

2、症例検討会プログラム

開会の挨拶

札幌医科大学形成外科教授 四ッ柳高敏

演題第1部

座長 小林眞司(神奈川県立子ども医療センター形成外科)

1. 外傷後全耳介欠損に対し再建を行った1例

札幌医科大学 形成外科

○加藤慎二、四ッ柳高敏、天王地敏雅、北田文華、須貝明日香、山下建

2. 当院における小耳症の相談症例 2 例

岡山大学 形成再建外科

○妹尾貴矢、徳山英二郎、山田潔、木股敬裕

3. 東海大学の小耳症手術の変遷

東海大学医学部 外科系形成外科学

○花井潮

4. 耳介再建後長期経過症例

香川大学 形成外科

○濱本有祐、岡田真衣子、木暮鉄邦、玉井求宜、井上聡子、松本絵里奈、工藤博雄、永竿智久

5. 耳介低位と前方折れ曲がりを伴った小耳症の1例

仙台医療センター 形成外科

○鳥谷部荘八

仙台形成外科クリニック 東北ハンドサージャリーセンター
牛尾茂子

6. 犬咬傷による耳垂欠損再建の1例

弘前大学形成外科

○漆館聡志

演題第2部

座長 鳥谷部 莊八(仙台医療センター形成外科)

7. 外耳道が前方低位に存在する小耳症の再建手術

琉球大学医学部附属病院 形成外科

○清水雄介

8. 扁平な再建耳介の修正手術

琉球大学医学部附属病院 形成外科

○清水雄介

9. 左絞扼耳輪、右小耳症の再建方法についての相談

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○戸澤麻美、森 秀樹、松満紗代子

10. 小耳症に対する肋軟骨移植術後に一過性顔面神経麻痺を来した1例

札幌医科大学 形成外科

○鈴木明世、四ッ柳高敏、宮林亜沙子、権田綾子、中川嗣文、山下建

11. 2nd Congress ISAR, Beijing 参加報告

香川大学 形成外科

○濱本有祐、岡田真衣子、木暮鉄邦、玉井求宜、井上聡子、松本絵里奈、工藤博雄、永竿智久

12. 複数回鼓室形成、乳突切開施行された小耳症の1例

静岡県立こども病院 形成外科

○加持英明

閉会の挨拶

札幌医科大学形成外科教授 四ッ柳高敏

3、参加者名簿

*50音順 敬称略

氏名	所属
伊谷 善仁	近畿大学医学部附属病院
今井 利郎	大崎市民病院
牛尾 茂子	仙台形成外科クリニック泉中央
漆館 聡志	弘前大学医学部附属病院
加持 秀明	静岡県立こども病院形成外科
北畑 伶奈	東京都立小児総合医療センター
小林 眞司	神奈川県立こども医療センター
清水 雄介	琉球大学医学部附属病院
妹尾 貴矢	岡山大学病院
玉田 一敬	東京都立小児総合医療センター
徳山 英二郎	岡山大学病院
戸澤 麻美	愛媛大学医学部附属病院
鳥谷部 荘八	仙台医療センター
花井 潮	東海大学附属病院
濱本 有祐	香川大学医学部附属病院
松満 紗代子	愛媛大学医学部附属病院
森 秀樹	愛媛大学医学部附属病院
山内 誠	近畿大学医学部附属病院

全国よりお越し頂いた先生方	18名
札幌医科大学医局・関連施設医師	11名
研修医	3名
札幌医科大学医学生	6名
札幌医科大学看護師	2名
事務局	2名
合計	42名

4、Photo コーナー（研究会の様子）

ライブサージャリー 「小耳症 肋軟骨移植術」



手術室と講堂を繋いでのライブサージャリー。モデレーターは、香川大学 瀨本先生。画像や音声が届かないこともなく、活発な意見交換がなされました。

今後の方向性検討会



「日本耳介再建研究会」を今後どのような会にしていくか、また会則や第2回目の日程等も決定しました。

ランチョンセミナー



「各種先天性耳介変形の成因と治療法」をテーマに、札幌医大 四ッ柳先生がお話をされました。お弁当はアルケア様にご準備頂きました。有難うございました。

ハンズオンセミナー



人参を使ったハンズオンセミナー。軟骨フレームの厚みやカーブを体感できます。最後に陰圧をかけると、手術の疑似体験ができます。(写真右下:四ッ柳先生作成)
岡山大学の妹尾先生、とてもきれいにフレームを作成されていました。

症例検討会



耳の治療に熱意を持った先生たちが真剣に学び、本音で相談しあう症例検討会。まさに難症例の相談ばかり。「僕だったらこうします、先生だったらどうしますか？」という活発な意見交換がなされました。

総合懇親会



演題の準備がまだ済んでいないのですが... (笑)
と仰いながら、みなさん懇親会に参加してくださいました。
学会でお会いすることはあってもゆっくりお話することはなかなかありませんので、情報交換の良い機会にもなったのではないのでしょうか？

5、参加者の感想

1. 東海大学医学部 外科学系 形成外科学 花井潮先生より

すでに冬のにおいのする札幌の地で、第1回耳介再建研究会が開催されました。光栄にも、私もその記念すべき会に参加することができました。

ライブサージャリー

立派な臨床講堂で、音声も映像も殆ど途切れることなく手術を見学させていただきました。詳しい解説付きで手術時間3時間とは、四ッ柳先生はもちろん、肋軟骨採取担当の加藤先生も驚異のスピードでした。私は5年ぶりに四ッ柳先生の小耳症手術を拝見したのですが、記憶が曖昧になっていた部分や、当時の自分では考えが及ばなかった事などが明確化されて、理解をブラッシュアップさせることができました。次回は耳介挙上術も是非ライブで見たいと思います。

濱本先生は、「プチ手術とは何ですか？」など、皆が知識を共有できるよう随所で質問を挟み、名モデレーターぶりを発揮されていました。

尚、耳珠の裏側に皮膚を入れ込むためのこだわりの“竜宮城”ですが、単語をインターネット検索したところ、お城の門の様な画像が多く見られました。私のイメージでは赤い橋だったので、会場で腑に落ちない顔つきの皆さんにそうやってしまったのですが、四ッ柳先生はどちらを想定されているのでしょうか。その辺り、明確にしていただけたらと思います。

人参教室

フレームワーク作成のワークショップに初めて参加しました。正直、「人参・・・。さすがに軟骨とは違うのでは・・・。」という先入観でいっぱいだったのですが、削りだすと軟骨にかなり近い手応えがありました。即席とは思えない解説ビデオを視ながら、手術室で座っているかのように自分のペースで楽しく作ることができました。

実際の肋軟骨は、大きくねじれたり曲がっていたりすることが多く、小耳症のフレームワークを作り始める最初の工程で、私は毎回ちょっと悩みます。限られたドナーを有効利用する訓練（アドバンスコース）として、用意する人参を野菜スティック状のもの（胸骨付着部の形態？）と平らなもの（肋骨移行部の形態？）2種類にするとよりリアルに再現できるのではないのでしょうか。（野菜スティック型は乾燥しづらそうですが。）

手袋とV.A.C.を使用した移植シミュレーションは、ワークショップだけでなく、術者個人がフレームの改良を行ってゆく上でもとても良い方法だと思います。（KCIさんは自社製品が全く関係ないことに使われているとはつゆ知らず。）

医局の皆さんによる、至れり尽くせりのご準備に感謝いたします。

ランチセミナー

先天性耳介変形の分類と成因について、四ッ柳先生よりご講演いただきました。Mirror ear など、診たことのない多様な変形があることがわかりました。耳介変形の原因である耳介筋の異常は、クリアカットで私にとってとても興味深い概念です。

5年前に四ッ柳先生の外来診療を見学してから、私も埋没耳の赤ちゃんには歯科用モデリングコンパウンドで矯正治療を行っています。その効果を実感していましたが、変形の強いスター耳などにも有効とのことで、今後の診療に活かそうと思いました。

また、われわれ形成外科医が日常診療で遭遇することはごく稀な、テタニーの典型的な臨床写真もみることができました。

症例検討会

神奈川県立こども医療センターの小林先生、仙台医療センターの鳥谷部先生が座長をされました。本邦初の耳介再建症例検討会は多岐にわたる内容で、諸先生方の苦勞の跡が覗える難症例ばかりでした。逆に私は、無責任なようですが似た症例が来院したらどなたかに相談できそうだと安心感すら覚えました。1演題につき15分間という設定が思いのほか短く、なんとなく発言を遠慮してしまったところは反省点です。私の患者さんは hemifacial microsomia の方が殆どで、治療に難渋する事もしばしばですが、今回症例提示して皆さんのご意見をきくことができ、hemifacial microsomia の小耳症手術は決して簡単ではないということを再認識しました。今後はその難しさに慣れていることを強みと考えて手術に臨めそうです。

総評

四ッ柳先生も語られていたように、第1回耳介再建研究会は大成功であったと感じました。こんな風の一つの分野について深く、それでいて気兼ねなく討論できる研究会が他に存在するのでしょうか。小耳症の症例が少ない施設でも、他の先天性耳介変形や外傷、悪性腫瘍切除後等々、耳介再建に関する演題を出して相談できる絶好の機会が得られると思います。

本研究会では、おなじみの先生は勿論、初対面の先生方とも交流を深めることができました。所属施設の抱える問題（もし有れば）までも相談し合えるのは、できたばかりの小さな会ならではの恩恵なのかもしれません。

四ッ柳先生が数年前に、「そのうち耳の学会やるから来てください」と絵文字付きのメールを下された時には、まさかこんなにも盛り沢山な内容を、しかも（研究会なのに）2日間も確保してやっつけてしまうとは、想像すらしませんでした。先生の耳介の治療に対する情熱、後輩に継承しようという明確な vision が形となって実現したと感じます。

山下先生をはじめとする医局の先生方、医局秘書さんが、準備や当日の運営に尽力される姿には脱帽させられました。大変お世話になり感謝申し上げます。

今後の耳介再建研究会の発展を心より祈願いたします。

余談ですが、ライブサージャリーの後の“今後の方向性検討会”では、もっと狭い部屋の方がよいというご意見がありました。四ッ柳先生の手術は本当に驚くべき速さではありますが、それでも

羽田から新千歳よりはずっと長く座り続けるため、個人的希望（わがまま）としては、来年以降も椅子の座り心地がとてもよくお尻が痛くならない臨床講堂がいいなあ・・・と思います（手術室で頑張っておられる方々には大変申し上げづらいのですが・・・と結局言っているのですが）。

2. 香川大学医学部 形成外科・美容外科 瀨本有祐先生より

札幌医科大学形成外科の皆さん研究会の準備お疲れさまでした。初めての試みとは思えないほど、充実した研究会でした。ありがとうございました。

初日のライブサージャリーの司会をさせて頂きました。私では力不足かと思いましたが、四ッ柳先生の驚異的なスピードに隠された細やかな技術を、参加者にお伝えできるように努力したつもりです。いかがだったでしょうか？肋軟骨移植は3時間余りで終わったのですが、文字通りあっという間の3時間でした。軟骨採取の加藤先生も1時間で第6・7・8の肋軟骨3本を採取されていて、会場から「どのように軟骨採取を採取しているか、詳しく見たい」との要望が多数上がりました。私ももちろん見たいです。次回の研究会では軟骨採取に関しては術者視野のカメラも導入すれば、さらにリアルなライブサージャリーが提供できると思います。北の大地で生まれたチーム四ッ柳は「耳介再建に関しては世界一なんじゃないか？」と素直に思います。久しぶりに見たチーム四ッ柳の手技の変化や、皆さんからの数多くの質問から、新たな気づきもあり、私自身非常に良い経験となりました。司会にご指名頂き本当にありがとうございました。

人参を用いたカービング教室での、二日干し後の人参はかなりリアルでピオクタニンの色乗りもよく、十分シミュレーションに耐えうる素材だと思います。四ッ柳法のベースの作り方は、最小限の軟骨から深い耳介の形態を作るのに最適で、改めてその合理性に舌を巻きました。感覚的にもデザインし易く、慣れてくると、採取された軟骨がどのパーツに適しているか速やかに判断できるようになると思います。

今後さらに多数の参加者が集まり、完成された手技を共有し議論することで日本全体の耳介再建のレベルアップ、世界への発信につながることを期待しています。微力ながら協力させて頂ければ幸いです。

6、主催者から

札幌医科大学 形成外科 四ッ柳高敏

日本の形成外科は、お互いに大学間の敷居が高く、なかなか気軽に見学、勉強に行く機会が得られにくいのが現状です。耳の再建の現状を見ると、海外ではレベルの向上が著しい一方、近年の国内のレベルの低迷は憂うべきであり、国全体の意識の低さを痛感します。そこで、今後の国内の耳の再建レベルの向上のため、私がこれまでに得た技術や知識を伝授していくことも使命と考え、その機会と方法を検討してきました。そして、そろそろ期は熟したと感じ、今回の開催に至ったわけです。

1回ライブサージャリーを見ただけで手術ができるようになるものでは勿論ありませんが、四ッ柳塾を開催することで、門戸を広げ、気軽に見学、勉強に来られる状況を作る意味もあります。すでに手術をそれなりに経験してきた先生は、自分のやり方との違いをみたり、以前理解が十分でなかった、または見逃していた部分を穴埋めするための場となるでしょう。

人参加室では、軟骨フレームの厚みやカーブや全体像を体感でき、良いトレーニングになると思います。人参加室は肋軟骨とは違いますが、実際の軟骨フレーム作りと同様の感覚を養うことができます。一度見学に来てもしばらく間が空くと、イメージが変わってくるので、手術がそう多くない施設の先生は、1年に1回、それを確認できる機会にすると良いかと思います。

さらに症例検討会は、一般の学会とは違い、耳の治療に熱意を持った先生たちが、真剣に学び、本音で相談しあう場として、価値が高いと思います。このような趣旨の会はこれまでなかったのではないかと思います。

今回は第1回ということで、これまで当科に手術見学にお越しになった先生を中心にお声がけさせていただいたこともあり、最初からアットホームな和やかな雰囲気が始まりました。初めての試みだったので、多々反省点、改善点もありましたが、全体的には比較的スムーズに進み、内容も盛りだくさんだったので、出席者の皆様には充実した時間を過ごしていただけたのではないのでしょうか。人参加室も予想以上に盛り上がり、また症例検討会では率直に普段の学会ではできないような相談ができたという点で、私が思い描いていた理想の研究会になりました。

来年も当大学で開催することが決まりましたが、来年以降はさらに出席者が増加することが予想されるため、よりスムーズな運営、しかし率直に語り合える雰囲気は維持できるよう心掛けていきたいと思っています。またお会いすることを楽しみにしております。

7、会則

第1条（名称）

本会は日本耳介再建研究会（Japan Society for Auricular Reconstruction : JSAR）と称する。

第2条（代表）

本研究会の運営、指示系統を明瞭にするため、代表を1名おく。

第3条（事務局）

本会は当面の間、事務局を札幌医科大学形成外科学教室（〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目291、電話011-611-2111）に置く。また代表交代の際にはその勤務先に置く。

第4条（目的）

本会は耳介再建に関する最新の情報交換と会員相互の研鑽を目的とする。

第5条（事業）

本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1) 年1回の研究会の開催
- 2) ホームページの運営
- 3) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第6条（会員制について）

入会等の手続きは不要とする。耳介再建に興味を持つ医師およびその関連分野の関係者をもって構成する。

第7条（会の運営）

- 1) 研究会時に会議を開催する。
- 2) 代表および次回会長の決定に関しては、会議において、出席者の合意にて行う。
- 3) 同会議において会の運営方針を審議、決定する。

第8条（経費）

参加者に対し、本会の経費・運営費を徴収する。参加費の額は年度ごとに会長が決定する。また、必要に応じて賛助金をこれに充てる。次年度に事務局が報告を行う。

第9条（会則の変更）

この会則は世話人会の議決を経て変更する事ができる。

第10条（その他）

研究会の運営に支障となる事項が発生した場合、代表または会長の判断にて対応する。

付則

1. 本会則は平成29年11月2日より施行する。